



戊辰春乃集

仁与生身来

若村庵

おろつろつろも海みぬき松川

其雀

去るや一亭はくちかか

二鳥

水すみて早もろくお苗代田

楚石

夢や船を待たれ木乃向ふ

卧鳥

魚ののり都はくきし朧月

露滴

荒なりや妹の垣根に梅の花

蕙圃

さしあもよとくちあはれは可那

桃波

白子寺家

家母の帰るへさきふぶき去り風 棠宇

けり紫花は花もしるまをりう南 斗口

洞津

一目と山よりとれて暮る雨 一勢

小舟冨人あきまきし 涅鯨像 義蟲

く川牛や梅のりとれ人形より 看幸

おりろく二日とれけき梅とれ 集蟻

松濤高し越ひゆ

大和宇泡

枝り糸えさうと月とも梅のり 魚徠

日つけよとつとつとふんり息 烏扇

かし越れ編りかしらを文と 胡蟾

ねりり糸衣人あふなり 徠

何とんと同じふくも登り月 扇

社日結念くし糸衣の吹 蟾

一 双樹
 一 得
 魚徒
 為扇
 胡瞻

梅ありと新うと長子ん 柳入り花
 負露北朝る 彫る 余室う 絢
 為徳
 滄波

倚松亭社中

飯抄や 赤燈る 赤らるる 海浮 龜潮
 春の鳥や 泣き 移れらるる 賣 若水
 早月此多守を 田の 暮 如意
 正身も 獨活も 定まら ちあら 新舎
 田ありし 水りる 水わ 歌公
 春の魚や 春の 春の 春の 壺俣
 春の 春の 春の 春の 雛之

改内蔭庵
松清

いなり月マゝたうし
四海足牙とらひ
花手推波をきし友人い
海去りた遺書を案白
一句一涙り一折を
秋の暮と親し
てしこれ新さえ
かきぬ水も

仙美居士

為徳

敬多れろわさげり

浪波

葉門あてくまう

浦調

月るあ江鯉のぼら

徳

えきりぬきを

波

かきしきし

調

いりも宮日

徳

字解り此等

波

はたらく

調

彈子... 渡... 遠... 山... 河... 行... 持... 昔... 道

徳 波 調 徳 波 調 徳 名

下畧

胷山下社中

川の... 出... 川... 大... 志... 為...

宴家 春芦 兔友 川鳥 如川 里中

鳴る蛙の音とて蛙の音

津 古川亭

理玉

久居 石亭

三頼

長しとて、蝶は羽けり風りし後

吸月樓

李扇

東之入弱いあそびやうり月

馬友

梨りもれ雪心の音成持あつる

萩南

○

一葉庵

啼はる雁やけりし海山

滄波

江のまや色深うくと桃花

南由

心ゆくわたりしを此池

友之

正日守所不定れ文人のあり

九家

ぬききり雪りし句持しり此外

淵丈

清きあつ月雨りしやうり蛙

布岳

赤いともみれ此世よりあつる

抱月

心友と尋ひて
鳥の渡り門より入るるは
其の

不鳴りしうををりし
可冬

即ちくくはれ初り
南柯

此れをいひて
斗麦

まゝゆれ中より
南調

木生りて
南由

花の雪とわたり
為徳

子令と月水の園に
雪亭

冬乃集意
冬乃集意

簾の月
洞洋

業子むれ世園
菊家

おぼろにむれ
大和守院

木のりや
胡蟾

花の雪
鳥扇

鏡柳花
茶醉

つる花
ひ

其意

可冬

南柯

斗麦

南調

南由

為徳

雪亭

菊家

大和守院

胡蟾

鳥扇

茶醉

ひ

清きし雲ぬく晴るの

小空のや雲無鳥のうけりは空を限

る家やしこのせしと空をわ

くはく世波よきとてけりやあ

今にけりくもあわれと

漁火残追り破れちりりう那

蛸売を根くおけり夕霜

蟻人を回今り若とねをあらうと

柳日

大和

鳥辺

船

南由

左徳

滄波

柄乃平しつふ華とてうく

中汲をささくよ月此空を雁了

松らそやりし虫のうき音

かきくそ萩うさほくく小虫虫

あふれと志の帰り物志乃袖

飛つ物ふと部このはたはうりて

仕とく小部下れもあふりつ

海そらと天を穿たきみ遠く

由

化

波

由

徳

波

由

使

店
橋東詰
766

月夕きく木松を結川
古の海を建ちて
海ももくもくは
色もたつた月夜
水さくく流るる
村の山あり花も咲く
子狐はきておし

下略

波 徳 由 波 徳 由 波

